

オオサキワンダーミュージアム 人と大自然の青空博物館

vol.32

世界農業遺産「大崎耕土」を通して
地域を学ぶ

世界農業遺産推進課自然共生推進担当 ☎23-2281
市内の小・中学校では、世界農業遺産「大崎耕土」
を題材に授業が行われています。

古川第一小学校の4年生は、総合的な学習の時間
で、世界農業遺産大崎耕土「副読本」を活用しながら、
市内の水の流れについて学んでいます。9月は、
鳴子ダムや岩出山大堰頭首工・内川、10月には緒絶
川を見学して、上流から下流へ水がつながっている
ことを学びました。

また、古川黎明中学校の3年生は、食文化、水生生物、
水管理、農耕文化、屋敷林「居久根」と生物多様性、
自然エネルギーの6つの分野に分かれて、課外
学習を行いました。

「世界農業遺産」という切り口から、自分たちの住
む地域への興味や関心が高まっています。

このような取り組みは、大崎地域世界農業遺産推
進協議会のSNSで発信していますので、ぜひアク
セスしてみてください。



Instagram



Facebook

大崎さんの食育コラム

その19

冬至(とうじ)の話



世界農業遺産推進課企画調整担当 ☎23-2281

冬至は、一年の中で昼が
一番短く、夜が一番長い日
のことだよ。冬至の日には
かぼちゃを食べ、ゆず湯に
入る習慣があるんだ。
旬は夏だけど、冬まで長
く保存できるかぼちゃに
は、栄養が豊富なことが知
られていたから、かぼちゃ
を食べて寒い冬を乗り切っ
ていたんだ。昔から冬至に
かぼちゃを食べると風邪を
ひかないといわれているん
だよ。

そして、ゆず湯に入るの
は冬至を湯治(とうじ)ゆ
ずを融通(ゆうずう)とい
う語呂合わせから、「お湯に
入って融通よくいきましょ
う」という意味があったん
だって。ゆずの香りには昔
から邪気を払う力があると
考えられていて、無病息災
を願ってゆず湯に入るよう
になったんだ。
元気に冬を越すために、
みんなもかぼちゃを食べて
ゆず湯に入ってみよう！

大崎市公式SNS
発信中です！



市公式SNS (Twitter、Facebook) では、観光
やイベント情報など、さまざまな最新情報を
発信しています！

二次元コードから、登録をお願いします。



Twitter

@osaki_city

Facebook



秘書広報課広報広聴担当 ☎23-5023

みんなでエコっぺ！

~やってみよう「エコ活」~

環境保全課環境保全担当 ☎23-6074

~Vol.4 [WARMBIZ (ウォームビズ)]~

皆さんは暖房に頼り過ぎずに、冬を快適に過
ごすライフスタイル[WARMBIZ(ウォームビズ)]
を知っていますか？暖房の室温設定を今までよ
りも下げることにより、CO₂の削減効果に加え、
電気代の効果的な節約につながります。

具体的な取り組みは、次のとおりです。

- ・マフラー、手袋などを着ける
- ・軽くて薄い腹巻など機能性素材の下着を着ける
- ・ひざ掛けやストールを使う
- ・鍋で体も室内も温める
- ・温・湿度計をチェックする
- ・湯たんぽ、毛足の長いスリッパやクッションを使う

家庭や職場で無理なく楽しみながら実践し
てみましょう！



市長コラム 天地人 師走を迎えて

今年も早いもので、何かと
せわしい師走を迎えました。こ
の時期は、一年の納めの時期
そして新しい年を迎える準備
の時期でもあります。公私共
に慌ただしくなりそうです。
新型コロナウイルスの発
生から三年以上が経過し、い
まだに収束しない日々が続
いております。異例の物価高
騰も加わり、市民生活に大き
な影響を及ぼしております。
自然災害も頻発・激甚化して
おり、7月15日からの記録的
な大雨により、河川堤防の決
壊、住宅や農業施設への浸水、
道路や農地の冠水、土砂崩れ
など甚大な被害が発生し、市
民の生活および経済活動に
多大な影響を受けました。
今、市民一丸となって、復
旧復興、日常を取り戻すた
めに全力で取り組んでいる
ところでもあります。
一方で、明るい話題もあり
ました。本年4月に震災復興
の象徴でもある地域交流セン
ターが開館いたしました。ラ
イフステージに応じた学習機

会の提供の場として、また中
心市街地の賑わい創出の場と
して、多くの市民の方々にご
利用いただいております。
加えて、市役所本庁舎建設
も順調に進捗し、来年5月開
庁に向けて準備を進めてお
ります。新庁舎を、未来に羽
ばたく大崎市の象徴として、
安全・安心のまちづくり、交
流・情報発信の拠点として市
政運営を進めてまいります。
また、この5月に本市が
「SDGs 未来都市」に認定
されたことは、持続可能な田
園都市の実現に向け、一層弾
みがつくものにしてまいり
ます。
明暗交錯した一年でした
が、新しい年をより安全に、
希望に満ちた飛躍の年にす
るためにも、年の瀬・向寒の
みぎり、ご自愛の上お元気で
お過ごしください。

大崎市長 伊藤康志

今月の表紙

今年で113年目、226回を迎えた「鹿島
台互市」は、わらじ村長こと、鎌田三之助翁
が、村民の豊かな暮らしを願い開設した歴史
があります。今回の互市は、3年ぶりの開催とな
りました。会場となる鹿島台駅から鹿島台総合支所ま
での「昭和通り」には、農産物や海産物、植木や苗木、木
工品など、約130の露店が並びました。
互市には、売り手と買い手の会話を楽しむほか、い
ろいろな発見や情報交換を行うなど、すてきな笑いが
生まれる、特別なにぎわいがあります。
例年、春と秋に開
催する互市は、鹿島
台地域の風物詩とし
て親しまれており、
地域色が豊かで、ど
こか懐かしい魅力が
あります。鹿島台地
域に、久しぶりに笑
顔と活気が戻ってき
ました。

▲目当ての品を求める人々で、にぎわいました

広報おおさき12月号 2022 No.201

Main Contents	目次
04 令和4年 大崎市表彰式	
06 令和3年度 決算の概要	
10 民生委員・児童委員は「あなたの身近な相談相手」です	
13 OSAKI Culture	
14 オオサキプレイガイド	
くらしの情報	
15 令和5・6年度入札参加資格審査申請を受け付けます ほか	
24 子育て支援情報 ほか	
26 相談コーナー	
27 休日救急当番医 ほか	
28 黒部市民訪問団が来訪しました	